

# 「つよい木造住宅のつくりかた 1」 2月木造トラス勉強会案内

木造トラス研究所・(株)合掌

2×4構造は基準が多くて、木造軸組は『自由に設計出来る = 自由に柱・梁を配置出来る』と間違った考えが主流を占めるようになりました。伝統の木造の開放的な空間の自由さは、確固たる基礎の上に成り立った応用の連続です。その学問的な考察は今の建築の中で置き去りにされている感がありますが、伝統の木造軸組にも**ルールがあります**。

木造軸組の意外と知られていない決まり事は、『2×4』の基準と共通する点が数多くあります。一見、基準が無いと思われている伝統木造のルールを『2×4』の構造ブロックの考え方を置き換えて解説します。

実際の設計に役に立つ知識にさせていただけるように、実例を織り交ぜて、実習の時間も設けています。終了後、希望者のみで懇親会あります。

日時 平成30年2月24日(土) 13:00～17:00頃終了予定

終了後、会場に残り懇親会します。(希望者のみ)

場所 西宮市勤労会館 (予定)

費用 4000円/日 (資料代含む)

懇親会に参加する人は、上記とは別に懇親会費1000円

申し込みは(株)合掌まで メール(truss@hera.eonet.ne.jp)

又はFAX(0742-36-2929)までお願いします。

当日の予定

13:00 受付開始

13:15～13:30

あいさつ

原田 量治

13:30～17:00

軸組の設計と構造ブロック

西原 誠助

原田 量治

途中トイレ休憩あり

17:30～19:30

懇親会 (希望者)

西原誠助(にしはらせいすけ) 建築 ゆめ工房 西原設計室

西宮市建築指導課勤務時、住宅金融公庫の設計・現場審査担当する。阪神淡路大震災では、軸組在来工法では多くの人命が失われたが、2×4工法には大きな被害がなかった事に注目、2×4の考え方を軸組在来工法に取り入れる「つよい木造住宅」を提唱し活動中。

《講師から皆様へ》

阪神淡路大震災発生時の平成7年1月17日午前5時46分寝ていると下から突上げるような強烈な衝撃がド～ンド～ンと2回あり、その後激しい横揺れが始まりました。経験した事のない余りの激しさで立つ事はおろかそこでじっとしているのがやっとでした。そんな状況下の地震にも耐えていたのは2×4でした。その次に柱、壁の直下率の高い在来工法の建物だと思えます。熊本地震でも阪神淡路大震災と同じ直下型地震でした。私たちは地震や台風など水平荷重は横からの荷重と思っています。またそのように教えられてきました。しかし熊本地震でも最新の2011年規準で建てられた木造住宅もいくつか倒壊しているようです。それはなぜなのか？それは今の規準は、直下型地震には対応していないからです。いくら2011年の最新規準で建てられていても上下階の壁や柱が重ならずしかも床の不陸が予測される建物は直下型地震では倒壊など大きな被害が予測されます。このセミナーはこれらにも対応できる2×4の考え方をみなさんと一緒に勉強したいと思えます。